

本部委員会の審議内容

公益社団法人 鉄道貨物協会

利用促進委員会 (H26.2.19)

平成25年度第8回利用促進委員会では、次の2項目について審議を行った。

1. 年間テーマ「鉄道コンテナ輸送の利用促進に向けた新サービスの検討と提案」

今回の委員会では、本部委員会報告書(案)のまとめの部分に関する審議を行った。その内容は次のとおりである。

平成25年度の年間テーマにおける調査は、平成24年度からの継続調査であり、鉄道コンテナ輸送の利用者である荷主企業や利用運送事業者が求めている、鉄道コンテナ輸送の利用促進に向けた新サービス(既存サービスの向上を含む)について検討および提案を行った。

鉄道コンテナ輸送に関しては、鉄道事業者や利用運送事業者の努力もあり、従来に比べてサービス面などにおいて向上がみられることはあらためて言うまでもないが、それでもまだ、荷主企業の要求する水準との間には隔たりがあるようだ。そうした荷主企業のニーズに対応できるよう、鉄道事業者および利用運送事業者にはいっそうの努力が求められる。

ところで、足元においては、東日本大震災の復旧・復興需要の発生などを受けて、トラックドライバー不足が顕在化していることに加え、アベノミクスの影響による円安の進展に伴い燃料価格が高騰するなかで、トラック運賃は総じて上昇に転じているものと推測される。すなわち、トラック業界内における過当競争の結果、理論値よりもかなり低い水準にとどまっていたトラック運賃が是正される動きが出ており、こうした動きは、競合輸送機関である鉄道コンテナにおいては、需要の拡大を図る上で当然追い風になるものと考えられる。

そうしたなかで、鉄道コンテナに対しては、トラックからシフトする可能性のある貨物の受け皿となるべく、競争力のある運賃を提示し、かつ荷主企業や利用運送事業者が求める水準まで輸送品質を向上することが求められよう。

なお、トラックドライバー不足は、利用運送事

業者にとってはコンテナ集配のための戦力不足という形でマイナスの影響を受けることとなる。併せて、鉄道コンテナ輸送が増送となった場合、特殊車両であるコンテナ集配車両が不足するという事態も起こりうる。したがって、利用運送事業者においては、そうした集配用のトラックドライバーや車両の不足といった課題の克服に向けた努力が求められる。

2. 平成26年度審議テーマ(案)について

A. 年間テーマ

(1) テーマ名

「鉄道コンテナ輸送の利用促進に向けた業種別の利用実態把握・課題の抽出と提案」

(2) 調査目的と内容

現在、鉄道コンテナ輸送を利用している各業種において、利用の実態や利用拡大に向けた課題・要望を把握するとともに、業種別および個別企業ベースでの将来の利用見通しについて検討を行い、さらなる増送を図るための基礎資料とするとともに、鉄道コンテナ輸送の利用促進策についての提案を行う。

B. サブテーマ

(1) テーマ名

「鉄道コンテナ輸送における養生材の効率的な、回収システムについての調査研究と提言」

(2) 調査目的と内容

a. 現在、鉄道コンテナ輸送を利用している荷主企業および利用運送事業者の中には、養生材にかかるコスト(原材料コスト、返回送コスト、処理コスト等)が大きな負担となっている企業も少なくないものとみられる。また、ストレッチフィルムなどの処理方法などについても苦慮している企業があるものと推察される。

b. 養生材の効率的な回収システムとしては、駅頭に養生材をストックしておき、往復利用や共同利用を図ることが荷主企業や利用運送事業者から提案されている。こうした現状を受けて、利用促進委員会においても平成25

年度の年間テーマ報告書(案)にて、隙間充填ボード、ラッシングベルト、エアバッグなど汎用性があり、かつ使用頻度の高い養生材に限定して駅頭にストックすることを提案している。

- c. 本調査研究においては、養生材の回収システムや処理方法に関するケーススタディを行い、現状における主要な養生材の回収システムの現状や問題点などを把握するとともに、ストレッチフィルムなど、利用後廃棄処理される養生材の処理方法や問題点についても把握する。これにより、駅頭への養生材のストックを提案するための基礎資料とするとともに、荷主企業が養生材を利用・処理するための一助とする。

輸送品質向上委員会(H26.2.21)

平成25年度第8回輸送品質向上委員会では、平成26年度テーマ(案)の目的・内容について審議された。

1. 年間テーマ

A. テーマ名

「鉄道コンテナ輸送の輸送品質向上に向けた荷擦れ・荷崩れ対策に関する調査研究と提案」

B. 調査目的と内容

- (1) 鉄道コンテナ輸送における荷擦れ・荷崩れ事故に関しては、平成24～25年度調査において「コンテナ内装」及び「養生材」に焦点を当て、主に段ボール箱輸送時の状況について、先行研究分析、現地調査及びヒアリング調査により各種の分析を進めてきた。特にヒアリング調査については、荷主・利用運送事業者24箇所を対象とし、種々の課題を抽出し提案につなげる等、一定の成果を得ることができた。
- (2) しかしながら、段ボール箱以外の荷姿である板紙、巻取紙、紙袋及び一斗缶等の荷擦れ・荷崩れ事故に関しては、平成24～25年度調査において未着手となっており、調査の余地が残されている。
- (3) 業種別という観点からも、この2年間で調査してきた食品や飲料、日用品に加え、紙製品や化学工業品等を調査対象に加えることにより、主要な鉄道利用業種を網羅的に捉えることが可能となる。その結果、荷擦れ・荷崩れに関するデータもさらに蓄積されて

いくことから、これまでの調査研究がより一層厚みを増すものと思われる。

- (4) また、JR貨物が平成25年度に実施した「コンテナ輸送品質向上キャンペーン」では養生資材購入支援が行われたが、同支援を受けた際に提出される「養生資材使用結果報告書」には、荷姿別の養生に関し評価、感想、意見等の有益な情報が記載されている。これらの養生資材購入支援を受けた事業者に対しヒアリング調査を実施し、改善状況等を調査することも、同キャンペーンと一体となった取り組みの一つになると考えられる。
- (5) 以上の理由から、平成26年度は、段ボール箱以外の荷姿にも着目し、荷擦れ・荷崩れ事故防止に向けた、さらなる提案を行うことを調査目的とする。

2. サブテーマ

A. テーマ名

「鉄道コンテナ輸送の輸送品質向上に向けた防振資材の最適化検証調査」

B. 調査目的と内容

- (1) 平成24年度調査では「鉄道コンテナ輸送事故防止資材の効果検証調査」で鉄道輸送中における振動を抑制する機材の一例として防振資材の性能確認を行い、平成25年度調査では「鉄道コンテナ輸送時における輸送貨物の挙動把握調査」を行い、輸送中の製品状態を撮影することにより荷擦れ・荷崩れ事故が起こる状態を確認した際、防振資材の状況も把握した。
- (2) その結果、上下方向には一定の防振効果が認められるものの、水平方向に関しては防振効果が小さいことが分かった。
- (3) しかし、輸送する商品によって防振効果に影響が生じることも分かってきており、汎用性の高い防振資材の検討が必要となった。サブテーマで検証してきた防振資材は貨物の積載量によって防振効果が異なることが推察されているため、積載量を踏まえた防振資材の設計を行い、汎用性が認められるものか検証する。
- (4) また検証には加速度値の計測だけでなく25年度調査同様、鉄道コンテナ輸送中におけるコンテナ内の製品状態を撮影し、加速度値と映像から防振効果を把握することを目的とする。